

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590600017		
法人名	有限会社 オアフ		
事業所名	グループホーム オアフ		
所在地	滋賀県草津市草津2丁目5-24		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂2階		
訪問調査日	平成30年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の笑顔が少しでも多く見られるように、そして、「あなたがいてくれてよかった」と言っていたように、日々の関わりを大切にしている。また、毎日の健康チェックを怠らず、利用者様の「いつもと違う」心身の変化の早期発見に努めている。地域の中で、利用者様が安心して日々の生活を送っていただけるような、そして、感動していただけるようなサービスを提供できるよう、職員のレベル向上に努めている。また、草津の商店街の近くに立地しているという地の利を活かし、地域のイベントに参加し交流も盛んに行っている。個別レクなどで、一人一人の趣味嗜好に合わせた、外出・外食などを企画し提供している。施設の行事に、家族様やご近所の方にも参加して頂き、交流を持てる機会を企画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目を迎えた当事業所は草津市の商店街に程近い住宅地の中で2ユニットを運営している。「地域の中でその人がその人らしくいつまでも輝き続けられるように」の理念を掲げ、利用者の心身の変化を看護師の指導の下、毎日の健康チェックとモニタリングで見守っている。又、医療連携体制加算事業所として2医療機関より医師が定期的に往診しており、ターミナルケアにも対応し、介護度の高い利用者も安心して生活できる体制を取っている。職員で構成する広報、レクレーション、リスク委員会も活発に活動しており、毎月広報紙「傾聴」を発行し地域に配っている。地域の祭りなどには積極的に参加し、幼稚園児との交流や中学生の体験実習を受け入れている。市の要請による認知症相談所は独自のPRを行い地域に開かれた事業所を目指し努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に目の付く場所に掲示して、(玄関や職員休憩室)認識を高め実施している。毎月のユニット会議で理念に基づきケアが出来ているか話し合っている。	基本理念を事務所や会議室に掲示し、理念を介護の場で実践する為に11項目の指針「利用者が各々の役割を持って…」等を定め、毎月の職員会議の中で話し合い、職員への定着を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オープン当初より自治会に加入している。利用者様の整髪は近隣の美容室へ出かけて行っている。また行事で作ったもの、例えば年末の餅つきの餅や焼き芋、オリジナルカレンダー等を近隣の方々へ利用者様とお配りしている。	自治会に参加し、地域の祭り等には積極的に参加している。毎月発行する広報紙に事業所の行事や催事を載せ町内や市の協力で地域に配り、市の要請による認知症相談所も継続しているが地域の関心がやや薄い。	広報紙に認知症や認知症介護についてのコーナーを設けて地域への啓蒙を行う等、地域の関心を高める為の努力を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している、広報誌「傾聴」に、認知症についての記事を掲載し、回覧板や手配りにより、地域へ発信している。地域との関わりを深めるため店舗の紹介等コミュニケーションをとる努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に一度開催し、行事や取り組みを報告している。民生委員の方の声掛けにより始まった、近隣の幼稚園児の訪問も継続してしている。	隔月開催の会議には市の介護保険課、地域包括センター、民生委員、家族代表が参加し、運営状況や取り組み、事故報告等を行っているが、防災、安全等の事業所の課題や問題等に関する話し合いは無い。	議題を事前に参加メンバーに知らせ、事業所の防犯、安全、災害等の課題について話し合い、意見、アドバイス、協力を貰う場とするように望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月発行している、広報誌「傾聴」を地域包括支援センターへお届けしている。不明な点など、その都度、質問し、アドバイスをいただいている。	介護保険課や地域包括支援センターに毎月広報紙を届け運営課題や感染症の予防等の助言を得ている。市はGH連絡協議会会議を隔月に開き意見交換の場を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まずは、何が身体拘束にあたるかを学んでいる。玄関の施錠は、防犯のためにしているが現在、9時～17時まで解除し時間を延している。その他については、外部研修に参加するなどし、意識付けをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルを作成しスタッフ全員確認している。	職員は外部研修を受け、マニュアルも整備されている。事務所に「身体拘束排除宣言」を掲げ拘束しない介護を心掛けている。玄関にセンサーを設置し、職員に対して見守り中心の介護を徹底する事により日中の開錠時間を延長している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、全員で虐待防止に努めている。また、身体の観察、日常の変化を見のがさない。発見した際は、至急報告するよう、周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加して学んでいる。現在、後見制度を利用されている利用者様がおられ、学ぶ機会が増えた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ユニットリーダーで、十分な時間を振り契約に関する説明、重要事項の説明を行っている。その時に質問等をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月毎のケアプラン見直し時期に、ご家族への説明と共に、ご意見、要望をお聞きしている。また、面会時にもお聞きするようにしている。	家族の来訪時に意見や要望を聞いている。提案で毎年家族を招待して鍋パーティーを開き、普段言い難い本音を聞き出す努力をしている。家族からは要望に合わせて臨機応変に対応して貰えると好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個別面談がある。また、毎月開催されるユニット会議においても、意見を聞く場を設けている。	管理者は職員の重要な意見や提案は職員会議で話し合いケアに生かしている。毎月の行事は担当職員で企画し実行している。職員の要望でパート職員も夜勤を可能にし、職員全体の負担軽減に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者又は役員が全職員に対して、書面による意見聴取と個別面談を行ない意見を求めた。日常の疑問等相談については、管理者から代表者に都度、行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は人員不足もあり、中々研修に参加できていないが、職員全員が階層別研修等、外部研修へ参加できるように心がけている。費用は事業所が全額負担している。研修終了後は研修報告書の提出、ユニット会議にて他の職員に研修内容を周知するようにしている。研修内容によっては、内部研修をしてもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在市内にあるグループホーム7事業所の職員と2ヶ月に一度、市役所において、情報交換や、勉強会を行っている。今年度は、7事業所の見学会を開いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の際、出来る限り、ご本人から話しを聞くように努めてはいるが、家族の要望等が多くなかなか本人から十分な要望等をお聞きできないことが多い。利用後に少しずつ信頼関係を築いていっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問など、お話しのできる機会を多くとり、信頼関係を早期に築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、利用者様、ご家族様共に、安心して穏やかに過ごしていただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節ごとの行事や、日々の関わりの中でレクリエーション、外出、外食、手伝いや散歩など一緒に考えて行なうよう努め、歓び等を共有できる関係を築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時等、職員も共に日常生活のご様子や変化を伝え、本人様の状態を共有することで共に支え合っていく関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方の面会時には、ゆっくりと会話できるよう、居室へご案内している。また、年賀状など、利用者様に書いていただき、郵送している。	入居時に過去の生活歴等を聞き取り、アセスメントシートに記載して職員が共有している。広報紙に催し等を載せ地域に配布し来所を促している。盆暮の一時帰宅は家族の協力を得て行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション活動等を通して、関わりをもっといただけるよう支援している。また、座席の場所等を配慮し、利用者様同志、友好的な関係を築いていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院中は、定期的に見舞い、経過を把握している。また、ご家族より相談等ある場合は、その都度、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動の中から、思いや意向の把握に努め、毎日のミーティングや申し送りノートにて、情報が共有できるように取り組んでいる。	日常の関わりの中での会話や表情、態度等から本人の意向を掴み記録して職員は共有している。把握が困難な場合には職員間での話し合いやユニット会議で取り上げたり、家族に相談して本人の意向を押し図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活や言動の中から、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。事前の利用サービスについては、面接時の聞き取りのみとなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、心身状態の変化を早期に気づけるよう、また、残存能力の現状を総合的に把握できるよう、申し送りで情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて家族様に、本人様の要望と施設の意向を伝え、ご本人にとってより良いケアが行えるように努力している。職員間では、毎日の朝礼やユニット会議で話し合い、ケア統一表を作成し、周知徹底している。	介護計画は家族の意向、医師の意見を加味し計画作成担当者が作成している。3ヶ月毎の見直し計画は目標達成状況も参考にして作成、緊急時は医師の意見を参考に作成し家族に説明、承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務の各時間帯に記録の記入を行ない、記載された内容は職員各自が目を通すと同時に申し送りで職員に周知している。変化が生じた場合はその都度、話し合いの場を作り、新たな計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて、柔軟な支援ができるように努めている。例えば、緊急入院時や医療機関の受診は、ご家族に連絡の上、不都合な場合、事業所に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街や近隣の道を散歩し、地域住民との交流をもっている。施設前にある美容室を利用して頂いている。また、民生委員の支援により、地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の担当主治医が2名おられ、利用前に利用者様、ご家族様に説明し、主治医の変更と適切な医療について同意をもらっている。	利用者と家族の希望で事業所の協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診と毎週の訪問看護により健康管理に努めている。医療機関に通う場合基本的に家族同行だが、緊急時は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、週1回の訪問看護師が体調管理に訪問するようになったことにより、利用者様の安心感が増したと思われる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必ず付添い、担当医師、看護師と情報交換を行い、入院中は、定期的に面会し、ご家族様と相談しながら、早期退院へ向けて医療機関との話し合いをもつ。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約の時点で、書面及び口頭にて事業所の終末期への対応について説明させて頂き、納得して頂いている。看取りを決断される際には、医師との話し合いの場を設け、事業所の出来る事を再度、説明し同意をいただいている。	入居時「重度化・終末期ケア対応指針」を重要事項説明書の添付書類で説明、契約を交わしている。重度化し看取りの希望があった場合は、医師と家族・事業所で協議の上、あらかじめ同意書を交わしている。現在重度化した利用者1名に対応中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、各ユニット、事務所、ワーカー室等に設置し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を利用者様と共に行っている。消防職員立ち合いの下、水消火器の使い方や自動火災報知機の使い方等の指導をして頂いている。草津市と災害時における福祉避難所の協定を結んでいる	年2回のうち、1回は夜間を想定した避難訓練を実施している。近所の住民には避難した利用者の見守り支援の了解を得ている。緊急時の連絡網やマニュアルは作成しており、非常時の飲料水も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を敬う気持ちを忘れずに、その人に合ったケアに取り組む事をチーム全体で対応するよう努めている。個人情報の保護に関しては、同意書を交わし管理している。	職員は個人情報に関する研修を受け、利用者者に尊敬と親しみを込めて接し、プライドを損ねないよう注意している。広報誌に掲載する写真は個人情報利用同意書を交わし利用者や家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の伝えたい事をしっかりと把握し、受け止め、自己決定できるよう支援する。個別レクを計画し利用者様の希望を叶えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生命保持や安全以外の理由で、職員が決まりや都合を優先することのないよう、利用者様の気分や体調に合わせて生活して頂いている。時には職員から利用者様に働きかけ意欲を引き出すような活動を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室は近隣の美容室へ出かけている。その日着用の衣類をご本人が選択できるよう心掛けている。選択できない方には、季節や場所に応じた服装を職員が選び本人様に提示してから来て頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に盛り付けをお願いしている。昼食は職員も一緒に同じ食事をいただいている。状態に合わせて、通常食、ミキサー、ソフト食の中から選択している。月に一回以上は利用者様の希望に沿った食事を一緒に作ったり、外食や注文が出来るようにしている	三食共配食サービスを利用しているが、盛り付けや後片づけは利用者が手伝い、職員と一緒に昼食を摂っている。月1回は食材の買い物から調理まで職員と利用者が共に行い楽しんでいる。庭でバーベキューや焼き芋をしたり、外食の機会も持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の仕入れ先にて、カロリー計算して下さっている。食事量、水分量に関しては個別に日々記録し職員間で把握している。水分については、好みをお聞きし提供している。食事業者を変更したことにより、より美味しい食事を提供できた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、尚且つ義歯装着の方は夜間義歯洗浄剤に浸けて義歯洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様別に排泄チェック表を作成し、それぞれの方の排泄パターンを把握できるように努めている。水分摂取量も考慮し、トイレ誘導を実施している。主治医の指示も仰いでいる。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し個々に声掛け誘導している。事業所は可能な限りリハビリパンツを付けない介護を行っており、現在着用者が9名中1名となり、トイレの利用が増え失禁が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様、個々に排便チェックを行ない利用者様の排便パターンを把握できるように努めている。その上でその方に合った飲み物、果物、乳製品を提供し主治医の指示も仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は決まっているが、その日の体調を考慮して対応している。また、予定日以外に希望があれば入浴して頂いている。機械浴を設置したことで、より安全で快適な入浴時間が提供できる。	週2～3回、午前か夕方に時間を決めて入浴、希望により毎日入浴する利用者もいる。機械浴設備を4名が利用している。庭で採れた季節の花を浮かべたり柚子湯、入浴剤などで入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、その人に応じた生活時間を提供している。夜間の不眠を訴える方には、暖かい飲み物の提供や、職員との会話、居室の温度調整など行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師より説明を受け、各個人ケースに薬情報を保管し、職員に周知している。薬の変更、中止については、書面で各ユニットに連絡し、誤薬のないよう周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現状に合わせた役割、楽しみを支援し、新しいことにもチャレンジにてもらえるよう工夫をしている。また、趣味・嗜好に合わせた取り組みを行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じるための外出支援を行っている。初詣、花見、紅葉狩り、紫陽花見物、コスモス見物など。また、外出を好まれる方には、毎日のように商店街まで散歩にでかけている。嗜好品の買い物が出来ように付き添いしている。	天気の良い日は、事業所周辺を30分かけ散歩することを習慣としている。近くの公園や花の名所などへの外出も楽しんでいる。車椅子利用者のためにユニット単位で月1回の植物園、果物狩りなど遠出する機会を作っている。家族と買い物などで外出もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理は行っていない。必要物品、個人の購入希望品があれば、事業所が立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状はやりとりができるよう支援している。希望があれば電話の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた、花や人形を飾ったり、壁紙を利用者様と共に製作している。食事時間はゆったりとした音楽を聞きながら、食事をしている。	食堂兼居間は日当たりよく、壁には利用者が作った貼り絵や旅行時の写真を飾り、明るく居心地の良い空間となっている。廊下は段差がなく、トイレ、浴室も広く清潔である。南側の外には芝生の庭と畑があり外気に触れながら休憩出来るようベンチを置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し、食卓ではない場所で時間を過ごせる工夫をしている。庭にベンチを設置し花壇や木々を見て頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、馴染みの家具等の持込みを依頼している。しかし、なかなか、お持ちいただけなのが現状である。	居室は全て洋室で6畳弱の広さがあり、よく清掃されている。使い慣れたタンスや家具を持ち込み、壁には家族の写真やカレンダーを飾って好みの居室作りをしている。居室の掃除は職員と利用者が協力して行い、シーツは週1回取り替えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの配置、個々に合わせた介護用品の使用、体型に合った椅子の使用、または足台の使用。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	広報紙をもっと有効活用する	広報紙を最大限活用し地域の方に施設に関心を持って頂き気軽に立ち寄って頂ける施設にする	広報紙に認知症や認知症介護についての情報を載せる。その他、認知症相談所であることを広く知って頂くため広報紙に案内を載せる。	2年
2	4	運営推進会議が施設の運営状況説明だけになっている	運営推進会議を有効活用し防災、安全等の課題や問題等の話し合いの場とする	議題を事前に参加メンバーにお伝えし、議題についての話し合い、意見、アドバイス、協力を貰う場とする	2年
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。